

みらい いづみ

第 6 号

港第14自治会世帯数・事業所数

H28.1.1現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	623	34	7町内会	221	2
2町内会	456	6	8町内会	58	11
3町内会	141	17	9町内会	180	2
4町内会	62	5	10町内会	182	17
5町内会	76	1	11町内会	261	9
6町内会	75	0	12町内会	76	4

世帯数計2,411 事業所数計108



子どもたちを地域で育む“しおかぜスクール”(通学合宿)

11月 石津八幡宮の七五三

子ども・若者を地域で育む“地域力”



12月 小川小学校避難所の防災訓練

1月 平成28年 港中学校区成人式

若者への期待

港第14自治会 会長 丸山昭夫

元旦、今年も初日の出を拝みに浜へ向かいました。堤防沿いには、中学生が連れだって来たのでしょうか、たくさんの自転車が並んでいて、嬉しく思いました。

私達も、中学生の頃、大勢で、石津の海岸から初日の出を拝んだものでした。数十年経った今でも、石津の海岸から、静かな駿河湾を金色に染めながら昇ってくる初日に向かう元日の中学生の姿は、当時の私達と少しも変わっていませんでした。昨年11

月のビーチクリーン大作戦の日に海岸に散乱していた流木が皆さんの協力でまとめられ、元旦の暖となり、人々の顔を照していました。

私達は今、自治会等地域の役員をやらせていただいておりますが、それは、故郷の風土を愛する気持ちからかもしれません。今の中学生や元日の早朝に、石津の浜に集う若者も、やがて私達の年代になったら、地域の為に働いてくれるに違いないと思った年の始めでした。

初めての試み 小川第13自治会との合同避難所運営訓練に217名参加

12月6日(日)に実施した焼津市地域防災訓練は、避難訓練に加え、炊き出し・倒壊家屋からの救助・簡易トイレの使い方等の訓練が各会場で行なわれました。小川小学校を避難所とする、小川第13自治会と港第14自治会(第10・12町内会)では、初めての試みとして416名(内港第14自治会は10町内会:99名、12町内会:118名 計217名)の参加により「合同小川小学校避難所運営訓練」が行なわれました。

小川小学校避難所防災連絡会(小川13・港14自治会、小川小学校、焼津市危機対策課)を平成26年11月に立ち上げ、訓練当日は、避難所運営組織の各班(総務・被災者管理・施設管理・給食吸水・保健衛生・災害時要援護者・ボランティア)の説明及び体験訓練が行なわれました。

参加者のアンケートでは、「避難所の組織、役割の認識ができた」「避難所の運営が行政頼りでなく、自分たちの努力と工夫で行なわれることがわかった」等、避難所運営訓練の認識と理解を深める訓練になりました。



出初式

1月4日(月)恒例の港第14自治会出初式が旧小川港において、自主防災組織関係者が多数参加して行なわれました。



七五三

石津八幡宮で 賑やかに 七五三 地域をあげて 健やかな成長を願う

男女とも三歳で初めて髪を伸ばす「髪置き」と称し、白い綿を頭の上ののせて、白髪頭になるまで健康であるようにと表現、男児は五歳「袴着」で碁盤に乗り、東西南北どちらにでも勝ち進められるようにと飛び降り、女児は七歳で、付け帯から大人の帯に変える「帯解き」。子どもは七歳までは神の子、七歳を境に大人の仲間入りをし、責任を持つ儀式として、子どもの健康と成長を感謝し、祝うのが日本の伝統通過儀礼行事「七五三」。

石津八幡宮では、11月14日(土)、あいにくの雨模様にもかかわらず、家族の皆さんと一緒に、石津地区の32名の子どもたちが色とりどりの服装で参拝し、拝殿は、関係者をあわせると120名程の皆さんが、賑やかな雰囲気にも包まれていました。地区を代表し参列した丸山自治会長は、お祝いの言葉と共に、こうした伝統行事を通じて「コミュニティの活性化」を呼びかけ「地域の子どものをしっかり地域で育む環境づくりにこれからも一生懸命努力していきます。」と挨拶されました。



第11町内会の話 町内のユニーク人

第11町内会のユニーク人は、ヤイズ毛髪を経営している高橋泰弘さん75歳。祖父が一家で満州へ移住し現地で出生。多才、中でも似顔絵は港公民館・青少年の家のイベント等で展示され、テレビでも何度か放映され周知のところ。その他、ダーツとスポーツ吹矢は協会認定の会員です。好きな言葉は「今」理由は「今」を使った格言が多いから。生活信条は「迷ったら休め」。旺盛な好奇心と発信力の強さ、また昨年、運転免許証を返納した慎重さも魅力だ。個性的なジャンパーで、赤いスポーツサイクルを走らせていたら高橋さんです。



自画像[画号は義亜(GIA)]

平成27年度 市民ふれあいゲートボール大会

焼津市ゲートボール協会主催による「平成27年度市民ふれあいゲートボール大会」が石津浜ゲートボール場で、平成27年11月22日(日)に開催されました。大会には、JA、市役所、港23自治会、港14自治会が参加しました。港14自治会から9チームが参加し、自治会部門では、1位：10町内会、2位：8町内会（Aチーム）、3位：4町内会 の成績でした。



港第14自治会 「資源とゴミの分別」



焼津市全自治会において、毎年燃やすゴミの組成分析調査を実施しています。平成27年度は、10月2日～11月17日（のべ19日間）実施。検体量：ゴミ袋380袋（1,296kg）

全体のゴミ組成比率の結果は、右記のとおりです。（市廃棄物対策課資料より）

区分	組成比率
古紙類	16.0%
古着・皮革類	3.9%
プラスチック類	12.3%
木・竹・ワラ類	1.1%
生ごみ類	39.0%
不燃物類	0.6%
その他	27.1%

この調査期間だけでも、リサイクル可能な紙類が207kg（76袋）、プラ類が158kg（113袋）廃棄されています。平均して、紙類とプラ類を合わせて10袋のうち約5袋分が資源化可能です。

港第14自治会では、ゴミ減量説明会、ゴミ収集個所に於ける啓発活動、そして周知回覧等で、地域の皆さんにゴミの分別のご協力をお願いしてきました。不燃物収集日及び古紙回収ステーションに搬入される雑紙の数量（平成26年度9,260kg、平成27年末11,980kg）が、前年度を上回って来たことが証しとして徐々に表れています。さらに、分別の徹底に心掛けましょう。

いつまでも 石津海岸公園を美しく やいづビーチクリーン大作戦

平成27年11月29日、焼津市主催の「やいづビーチクリーン大作戦」が行われました。当地区は、石津海岸公園前浜に478名が参加して美しい海岸となりました。

集められた流木（写真）は「初日の出」のとき、暖をとるため使われました。



ご成人おめでとうございます 港地区石津地域 成人者は54名

平成28年 焼津市成人式 が市内9中学校区において1月10日に開催されました。港地区では、港中学校体育館に、多くの来賓の方々をはじめ、地元関係者、保護者等がお祝いに参列されました。今年の港地区成人対象者は、男子75名、女子79名 計154名。内、石津地域対象者は、男子25名、女子29名 計54名 です。これからの石津の地域づくりに「若者力」を大いに期待します。



石津地区の景観

今回から、石津地区の昔の様子について紹介します。

石津地区の景観は、昭和26年から始まった小川港の建設によって全く変わってしまい、昔の姿を想像することは極めて難しくなっているといわれています。

すなわち、ここは、南から流れ込む木屋川、西からの前の川、北からの黒石川というように、三方から川が流れ込んでくる湿地帯でした。石津には本田、新田、向、下、雁

橋、北川原、浜集落がありましたが、人家はごくわずかであり、ほとんどがミズタ（水田）とカヤ場で、集落を結ぶ道は松とススキの生えた狭くて寂しい道であったと言われていました。

木屋川の右岸の海寄りには、江戸時代中期から後期にかけて人家が誕生し、「浜」という集落が生まれると、浜に対して水田の中にある集落をまとめて「岡」と言うようになったといわれています。

もとの石津村は、木屋川を挟んで「岡」と「浜」に分かれています。岡は田があるところで、浜はまさに浜辺です。

次回からは、この「岡」地区と「浜」地区の景観をもう少し詳しく紹介します。

シリーズ③

懐かしいあの時代
私の思い出アルバム

昭和40年代の
石津地区の消防団活動



(写真提供：第7町内会 中野 寛さん)

『しおかぜスクール2015』に港小児童34人が参加

「地域の教育力の向上を図る」ことを目指して静岡県教育委員会が県内各地で実施を呼びかけている『通学合宿』。港小学校区では『通学合宿 しおかぜスクール』が、平成27年11月26日(木)から28日(土)までの3日間、県立焼津青少年の家を会場に、港小学校育成会（PTA、子供会世話人）が実施団体となり、静岡福祉大学学生、港地区民生委員・児童委員、青少年の家職員、港公民館長、港第14・港第23自治会役員などがボランティア及び協力支援者として運営参加して、今回で8回目を開校しました。

港小児童 4、5、6年生の男子17人、女子17人が家庭から離れて共同生活をしながら登下校し、協力し合い、自分達の力で生活体験をすることにより、他者を思いやる心を育みあう環境を、地域の子供は地域で育むを実践し、「家庭」「学校」「地域」が連携し、地域の絆づくりの一役を担っています。



ワンポイント豆知識 シリーズ5 お米は脳や体のエネルギー源

世界中で食べられているお米は、大きく分けて、インディカ米（外米、長粒種で高温多湿が適している）と、ジャポニカ米（短粒種で、気候温暖で雨が適度に降る地域に適している）があります。日本で栽培されているのはジャポニカ米で、生産量が世界で2割ほどのお米です。炊いたときに粘りのあるのが特徴で私達の好みのお米と思います。インディカ米は粘りの少ないパラパラとした触感で、世界のなかで最も多く生産され、アジア熱帯地域や南北アメリカなどで好まれています。過去に日本が米の不作のとき、インディカ米を主食にしたことがありました。ジャポニカ米の栽培に適している日

本では、全国で多種にわたりブランド米が作られています。焼津においては「コシヒカリ」「あいちのかおり等のおいしいお米がつくられており、農業粗生産額の3割を水稻（水田で栽培する稲）が占めています。お米には脳や体のエネルギー源となっている炭水化物（糖質）や、カルシウム、ビタミン、鉄分、タンパク質など体に必要な栄養素が含まれています。

日本人の食生活が多様化している現在ですが、お米は、健康な身体をつくるには欠かせない主食の一つです。(完)
(資料参照：焼津市ホームページ・焼津農産物ガイド他)

交通事故★挽回★をめざす

…飲酒運転は犯罪です…

平成27年は交通死亡事故はなかったものの、人身事故（加害事故）は、66件でした。また、飲酒運転は、2件発生（昨年比-2件）して、飲酒運転の根絶には至りませんでした。自治会別無事故無違反コンクールでは、市内16自治会（3,000人以上）中12位の結果となりました。

平成28年は、「交通事故の削減」と「飲酒運転の根絶」を目指して、地域の皆様と一体となった早朝の交通立哨、交通安全教室の開催等、交通安全のための諸活動を通して、地域の交通安全意識の高揚を図ります。今後とも諸活動への積極的な参加をお願いします。

(1月～12月)

事故・違反	件数
飲酒運転	2
重傷事故	5
軽傷事故	61
評価点	2,040
順位	12



小川交番 防犯情報

マイナンバーの管理や還付金をかたる詐欺にご注意を

平成28年1月からマイナンバーの利用が始まりました。

※マイナンバーに便乗した勧誘やマイナンバーの漏えいに注意してください。

「マイナンバーの不用意な取扱いは危険」

※医療費や保険料の還付金をかたる詐欺に注意してください。

「ATMの操作を求める電話は全て詐欺」

おかしい電話がかかってきたら、すぐに警察に相談してください。

★小川交番 ☎054-623-1636 ★焼津警察署 ☎054-624-0110

編集後記

私たちの「いしづ」ってどんな地域？「自治会活動」ってなに？を「見える化」し、地区の皆さんが参画して、より良いコミュニティづくりに取り組む目的で「広報いしづ」が誕生して、早や3年が経過しました。

第6号は、しおかぜスクール、七五三、成人式と「地域の子ども・若者を地域で育む」内容を組み入れました。支え合う地域（福祉）、教育をはじめ、防災、環境、安全・安心と、これからも特集を組んでまいります。いよいよ次号（第7号）はカラー版・8ページ発行（6月）予定です。お楽しみに。広報誌へのご意見等を各町内会長へお寄せください。

広報委員／大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也
竹本忠利 安倍孝至 平田 厚

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	620	35	7町内会	226	2
2町内会	463	6	8町内会	58	11
3町内会	144	16	9町内会	181	2
4町内会	61	4	10町内会	181	17
5町内会	76	1	11町内会	289	7
6町内会	75	0	12町内会	76	4

世帯数計2,450 事業所数計105

みほと いしづ

第7号



県立焼津青少年の家で「自治会役員防災研修」

3月



水天宮例大祭 浦安の舞

4月

協働で“いしづ”の絆 さらに強く



港第14自治会定期総会に220名出席

4月



港公民館の居場所“みなとっちサロン”

6月

熊本地震から 日頃から地域の交流を深めよう

港第14自治会 会長 丸山昭夫

今回は、熊本地震のことを書かせていただきます。本震だと思った震度7の後に、同規模の本震が、近くで、続けて発生したのが熊本地震の特徴でした。その結果、倒壊家屋が非常に多かったと報道されました。余震は、一か月経ってもおさまらず、人々は、家の中で眠るより、車やテントの中で夜を過ごしました。

ところで、熊本は、今まで大きな地震がなかったとのことで、飲料水、食料等の備蓄も不十分だった様子。多数の人々で、避難所生活も大変だと、テレビ、新聞は報道しました。おそらく、被災された皆

様は、避難所生活の訓練をしていなかったと思われる。私は、今回の熊本地震から、改めて、次のことを強く感じました。

- ・いつやってくるか分からないこと。
- ・予め規模の大小は想定出来ないこと。
- ・備蓄品は、自治会としてしっかり確保すること。そして、個人でも、3～4日分は備えること。
- ・避難所運営訓練を積み重ね、地域の人々の交流を日ごろから深めること。
- ・家屋の耐震診断は大事なこと。

優先課題

地域の安全と人々の命を守る

平成28年度 港第14自治会定期総会で

地域住民のさらなる結束を確認

私たちの地域(2,450世帯)は、大きな地震が発生した時、津波の被害も受けることは免れない。今年度の自治会優先課題を「地域の安全と人々の命を守る」を掲げ、「防災訓練・防災研修の積極的な実施」「防災避難施設設置を関係機関に働きかける」「交通安全の徹底」「隣組の人々や若者の力の育成による自主防災組織の強化」「住民の親睦と教養、体育の向上」「住民の福祉の増進と生活の向上」「土木、衛生、社会施設等の整備改善」「青少年健全育成活動」「自治会内の諸団体及び各種委員との協力」「住民に自治会活動への理解と関心を深め、地域参画を働きかける広報啓発」等、平成28年度事業等を審議する「平成28年度 港第14自治会定期総会」が4月17日(日)、港公民館において158名の住民代表(73.8%の出席率)と、関係機関・団体等から約60名の来賓の皆さんのご出席をいただき盛大に開催しました。

退任される2名の自治会副会長及び6名の町内会長、自主防災関係者等の皆さんに丸山会長より感謝状を贈呈、そして、今年度、新たに就任する8名の自治会副会長及び町内会長の紹介がありました。議案事項はすべて承認され、平成28年度がスタートしました。

当日は、総会終了後に「石津共栄会総会」も開催されました。



第1町内会長	丸山 雅史	交通専門委員・体育委員
第2町内会長	平田 澄夫	社協・自主防・広報・避難タワー
第3町内会長	小池 篤	石津コミセン会計・環自協
第4町内会長	富田 一美	研修・社協・海岸公園・避難タワー
第5町内会長	原崎 省司	自主防・社協・祐心館
第6町内会長	渡辺 勲生	祐心館・交通専門委員
第7町内会長	佐藤 正樹	環自協・体育委員・総務
第8町内会長	八木 俊昭	交通専門委員・環自協・研修
第9町内会長	川村 正行	自主防・社協
第10町内会長	増田 康明	石津コミセン・自主防・総務・避難タワー
第11町内会長	安倍 孝至	自主防・広報・総務
第12町内会長	數崎 清	体育委員・自主防

自治会長	丸山 昭夫	7町内会
副自治会長	山中 義実	5町内会
副自治会長	平田 厚	12町内会
副自治会長	良知 秀彦	7町内会
自治会参与	大澤 雅晴	10町内会

民生児童委員地区責任者	鈴木 春子	7町内会
女性部長	半田 文江	9町内会
自主防指導委員長	吉田 初雄	5町内会
自主防救助隊長	中野 憲章	7町内会
自警団長	小池 憲司	7町内会
消防団11分団分団長	城間 和弘	10町内会
体育委員長	深津 充宏	9町内会
保健委員長	山梨 孝子	2町内会

平成28年度 石津共栄会通常総会開催

4月17日に、認可地縁団体「石津共栄会」の平成28年度通常総会が港公民館大会議室で開催されました。新たな会長に嶋芳正氏、副会長に石崎一雄氏、会計は櫻井昭之氏のほか理事9人の役員が交代され、新たな体制で石津地域に密着した活動を行うこととし、事業計画が示され、全会一致で承認されました。石津共栄会が果たす役割は、地域に密着した石津人の共同活動事業に石津の共有財産を保全しつつ活用していくことにあります。

主な事業は、①美化、清掃、緑化などの環境整備②防災、防犯、交通安全③地域のスポーツ振興と発展④高齢者対策、家庭生活の改善等社会福祉の向上などを挙げています。具体的な事業費として、老人クラブ、子供会、焼津福祉会、港第14自治会、地元消防団第11分団

スポーツ少年団、ゲートボール・グランドゴルフ・ラジオ体操会への活動費助成の他、浜公会堂の補修等にあてられます。また「石津共栄会」を運営していくための維持管理費用も計上されています。この活動費助成などの原資は、安政年間から石津人が培ってきた共有財産(土地)への愛着心、農地であった歴史から、大正期になり事業用貸地等に転じ、以降、現在まで売却、事業用及び住宅貸地として維持され、その貸地料収入が運転資金となってきました。平成28年度も貸地料収入が主要な原資となっています。



櫻井さん 嶋さん 石崎さん

石津海岸公園整備作業に200名が参加

港第14自治会は、2014年9月に完成した石津海岸公園(延長600m・約3.4ヘクタール)を、住民が環境美化活動に参加する「ポートサポーター制度」を県や市と締結し、これまで、夏季に芝生の散水・芝養生作業をはじめ、芝刈り・肥料の散布・外周樹木への散水、多目的広場の草取り、外周遊歩道の清掃、トイレ管理清掃、自治会役員による夜間パトロール等に取り組んでいます。

5月22日(日)は、8時過ぎから、地区住民100名と常葉大学学生100名の参加協力により、和やかに世代間交流による、芝生の目土入れ作業が行われました。公園から望む風光明媚な景観を堪能し、公園の素晴らしさを維持できるよう、地区の皆さまには引き続き、ご支援ご協力をお願いします。



港第14自治会 主な行事

- 4月 定期総会
- 5月 春季河川側溝清掃
石津海岸公園整備作業 市政座談会
- 6月 避難所運営訓練 町内交流ドッチビー大会
日赤救急短期講習会 広報誌「みなといしづ」第7号発行
- 7月 河川・海岸愛護月間清掃 石津海岸公園清掃 木屋川ポート事業
- 8月 旧盆の精霊送り 総合防災訓練
- 9月 第46回自治会体育大会 敬老会
- 10月 町内交流ベタンク大会 赤い羽根募金活動 港公民館まつり
- 11月 交通安全教室 ふれあいゲートボール大会 しおかぜスクール
広報誌「みなといしづ」第8号発行
- 12月 地域防災訓練 歳末助け合い募金
- 1月 自主防災会出初式 成人式
- 2月 グランドゴルフ大会 町内交流ファミリーバトミントン大会
広報誌「みなといしづ」第9号発行
- 3月 役員改選 焼津市災害時初動訓練 (津波避難訓練)

※ 毎月10日交通安全立哨 ※ 自主防災定例会 (奇数月開催)

「サッサと受けよう」 特定健診

4月の焼津市保健委員委嘱状交付式で、来賓挨拶の一部を短絡的に見出しらしからぬ「見出し」で書きました。

この特定健診は、平成20年4月から始まった保険制度です。背景として、少子高齢化(医療等費用負担者の減少と慢性疾患重症化の費用増加)による、現在の医療・保険制度存続への危機感があります。

本誌で、特定健診を取り上げるのは今回で3回目。

平成24年度から26年度の焼津市の受診率はわずかな増加はあるものの、県下35市町の順位としては、29位から31位へと下がっています。加えて、私たち

の石津地区は、市内の受診率でも最低ランクです。

医療の進歩はめざましく、焼津市立病院菱田名誉院長は、血糖・血圧・脂質の代表的危険因子に対し「今の薬は確実に危険数値を軽減させる。それを阻害しているのは早期健診・治療、そして生活習慣改善の不徹底だ。」と言い切っています。

健診対象者自身は気づかなくとも、周囲からは、早期受診と診断結果に基づく生活習慣の改善が強く求められています。胃がんを早期発見した人から「助かった」という声も聞こえています。健診受診券が届いたら受診手続きをしましょう。

これまでの災害の教訓を活かし、自主防災組織体制を強化

昭和51年から3年かけて、「自主防災会」は、市内23の自治会に組織化されています。阪神・淡路大震災が教訓となり、焼津市自主防救助隊が加わり指導委員、自警団、救助隊から成る組織と発展し、平成22年度より組織機能が整ってきましたが、港第14自治会組織の中で、「自主防災会」をさらに確たるものとするため、自治会副会長を防災委員長に位置づけ、「自主防災会規約」及び「自主防災計画書」を「防災委員会」で議論し、本年2月の自主防定例役員会において承認され、この4月より運用されています。

その主な内容は、

- 1 自主防と自治会が一体構成化された防災本部体制を作ること
- 2 指示、指令、伝達システムの明確化
- 3 女性部、保健委員、民生委員との連携強化
- 4 自主防役員役割、任期の明確化

等を骨子とし、その目的と事業については、組織の三要素である、人、物、財源を基本的な組立とし、条文は簡潔にして、別途自主防災計画書で細部を補うというものです。 また、各町内会長を防災委員

として、明確に位置づけるものとなりました。

先の熊本大震災の惨事を見ても、日々の生活の中で防災や減災への取組が如何に重要であるかが私達に突付けられた大きな課題です。個人や家族だけで出来る「自助」には限界があり、向う三軒両隣、町内会、自治会が地域一体となり組織的に取組む「共助」としての自主防災会の果す役割が大きく求められています。



地域ごとに話し合う定例防災会議

5年間の防災訓練参加実績を検証

なぜ、防災訓練の参加意識が低下しているのでしょうか。

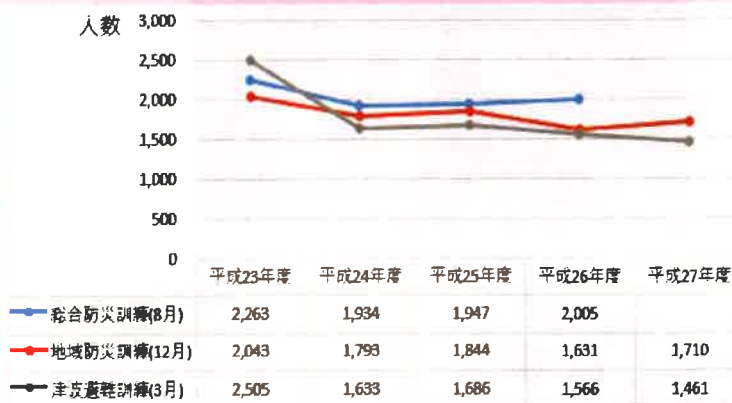
年間の防災訓練は、(1)8月 総合防災訓練(2)12月 地域防災訓練(3)3月 災害時初動訓練(津波避難訓練)の3種類の訓練が行われています。

右の表は、東日本大震災(3.11)が発生した平成23年以降、5か年間の港第14自治会のそれぞれの訓練参加状況を表わしたものです。平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」直後、5月に実施した「緊急津波避難訓練」には2,500人が参加。その後、今日までの訓練参加状況は、横ばいです。強いて言うなら「喉元過ぎれば熱さ忘れる」といった状況でしょうか。

これからの、各種防災訓練に、住民が参加意識と参加実績を高め、成果をあげていくには、各訓練の目標を「見える化」し、メリハリのある訓練内容を企画するとともに、一世帯一人の参加ではなく「家族ぐるみの参加」を徹底することです。



8月28日(日) 総合防災訓練には家族ぐるみで積極的に参加しましょう。



* 平成23年度津波避難訓練は5月に実施した緊急津波避難訓練
* 平成27年度総合防災訓練は天候不良で中止

東京都立川市の防災に学ぶ

去る1月24日(日)に、自治会役員、町内会長、自主防役員、女性部、保健委員等22名が参加して、平成27年度防災研修を実施しました。研修先は、東京都立川市の「立川防災館」。「防災ミニシアター」では、東日本大震災の津波等の大規模災害の映像をボディソニック付きの座席で迫力たっぷりの臨場感を味わいながら学習。「地震体験コーナー」では、過去の大地震の震度に合わせた体験だけでなく、地震発生後の身の安全確保後に、使用中のガス器具の停止、ドアを開けて出入口の確保、ブレーカーの切断体験等貴重な研修をしました。



シリーズ③

防災減災のための家庭で出来ること

大地震が怖いのは、自分達の平穏な暮らしを破壊（家族と永別）してしまうからです。私たちが防災訓練を行うのは、避難や備蓄によって少しでも生活の確保をしたいからです。このことは家族を守るためであると言っても良いでしょう。

◎家族で防災会議を

年に数回（防災訓練の日、東日本大震災の日、阪神淡路大震災の日などをとらえて）の家族防災会議を持ちましょう。（食料の備蓄、非常時持出品、部屋のレイアウト、家具の固定などについて）

◎避難場所や連絡方法は複数の方法で

大地震発生時の居場所にもよりますが、大きな揺れを感じたら津波が発生すると思って、津波浸水地域や沿岸部であれば、近くの高台等（津波避難タワー、避難ビル、協力避難ビル、小中学校の3階、頑丈な3階建以上の建築物、小高い山等）に避難します。自宅や自宅近くであれば、指定避難場所を2か所以上決めて覚えておきましょう。

また、いざという時の連絡手段は、災害用伝言ダイヤル（171）の利用方法を覚えて置くことや遠くの親戚など、共通の知人の連絡先を共有し、その人の中継で無事を確認するなどをしましょう。

◎自宅に戻るのには落ち着いてから

学校や勤務先で大地震に遭遇した時は、無理に自宅に帰らずにそこに留まることも必要な時もあります。家族との連絡も大地震の日にはできないこともあります。家族を信じて、家族で決めた避難場所や連絡方法で慌てず過ごすことも大事なことです。家族会議で津波避難は、家族を信じて『てんでんこ』で。まずは「避難地」に。そして「避難所」訓練も地区によって実施します。（完）

特集

いしづの居場所を拓く②

私の居場所から地域ぐるみの居場所に向けて

今、なぜ「居場所づくり」が叫ばれているのでしょうか。

家庭・家族機能や社会環境の大きな変化の中で、さらには、今日の災害発生後の尊い教訓から、改めて、地域住民の顔が見える「地域の支え合いづくり」・・・それは、高齢者の孤立防止だけではなく、今日では子育てで悩む若い人たちや若者等、全ての地域住民が気軽に、いつでもどこでも出会い、そしてふれあう場所、そこに「居場所」論議があるのでしょうか。

昨年9月4日に、地域に拓かれた公民館機能として「港公民館」に港地区まちづくり推進会(港第14・23自治会で組織化)による「みなとつちサロン」が開所されました。平成27年度の「みなとつちサロン」の活動実績を紹介すると、月2回（第1・3金曜日09:30～11:30 参加費無料・事前申し込み不要・誰でも可開催。参加状況は、延べ903名(月平均48名)、女性76%、男性24%。主には、港地域から86%の参加ですが、小川・大富・焼津・和田・豊田地域からの参加もありました。年代では、70代が34%、80代30%、60代15%。そして10代、30代、40代、50代、90代の方と世代を超えた交流の場として利用されました。

さて、先般、「社会教育カフェ」（焼津市社会教育委員会主催・94名参加）が、世代を超えて、どこでも誰でも参加する「集める居場所から集まる居場所づくりをめざす」をテーマに、ワーク

ショップ(話し合い)を開催しました。全体の26%は、「自立した運営(お客さんにならない)」「世代を超えて、笑いがあり、おしゃべりできること(語れる環境であること)」「対等で平等でありたい(してあげるから一緒に学び合う)」「一緒のフロアでゆとりがあり、多目的なひと時を過ごせる自由な環境」等「運営面」の意見でした。次に、「いつでも利用でき、通える距離にある」「商店の一角、学校の空き教室」「地域性を活かしたご近所の集会場」等「施設面」(24%)でした。3番目に多かったのは、「性別・年齢を問わない」「参加者とボランティアの区別をしない」「多世代交流」等「人間関係」(15%)でした。

さあ、「いしづ」の「居場所づくり」の実現に向けて…(続く)



平成27年9月 みなとつちサロン開所式で

ごそんじですか傷害保険 その1

町内会活動における傷害保険

最近、地域の方から「地域活動で怪我等をした場合、何か保険の適用はあるのですか?」と問い合わせがありました。本号(第7号)からシリーズで「自治会・町内会活動における傷害保険」を紹介します。

社会活動のほとんどは、個人には、安全注意義務、管理・監督者には、安全配慮義務が求められています。それでも偶然に発生する事故に備え保険があります。自治会活動にかかわる保険として、「焼津市自治会連合会」「港第14自治会」「各町内会」は、それぞれ傷害保険に加入しています。

保険内容は約款に詳細に記載されています。今回は「町内会」の傷害保険についてその概要を紹介します。

- (1) 対象者：町内会会員
- (2) 対象事業：概ね町内会・自治会の事業
- (3) 保険適用：概ね自治会の傷害
- (4) 補償内容：町内会ごと、契約会社等で異なります。

※ 問い合わせ及び怪我等が生じた時は、速やかに町内会長に報告をして下さい。

引き続き
ご協力を
お願いします。

古紙回収ステーションは、この1年間大きな成果をあげました。
古紙回収量の増減は、自治会運営を大きく左右します。

古紙の回収量は、平成23年度より26年度に至るまで、様々な要因による急激減少にあります。自治会では、平成27年度に、港公民館・石津コミュニティ防災センターの2個所に古紙回収ステーションを設けました。いつでも回収できる環境づくりに努めた結果、113.8トンで前年度より3.4トン増量と新しく設置した2つの古紙回収ステーションがその役割を果たし、大きな成果を上げています。

おめでとうございます

第4町内会の若梅吉秀さんに感謝状が贈られました

平成28年5月16日、大井川庁舎において開催された、平成28年度環境衛生自治推進協会(環自協)総会において、焼津市環境衛生自治推進協会より、10年にわたり石津浜公園の清掃美化活動に取り組み、地域美化思想の普及に尽くされている海岸巡視員の若梅吉秀さんに感謝状がおくられました。若梅さんは、「石津地区避難タワー北側の公園にはベンチがあるので桜の満開時は花見などしてほしい」と語っていました。



水天宮の大祭と浦安の舞

一般に『水天宮さん』と呼ばれ、石津地区住民の産土(うぶすな)神祇(かみてき)存在の石津水天宮は、江戸時代安政年間に、江戸深川の材木商野口庄三郎が幕府の御用材を小川港から海路江戸へ送るために、海上安全の守護神として勧請されたものと言われています。それ以後、石津地区の住民や漁業関係者の信仰や安産祈願の神様として近隣から広く信仰を集めて今日に至っています。中心的な祭礼は4月5日に行われる例大祭です。12の石津地区町内会区がそれぞれ当番を受け持ち、甘酒づくりや接待などに当たります。今年は、8町内会が当番町内会として盛大に執り行われました。今年の大祭には、浜地区・7町内会から小学校6年生の山崎愛莉さん・鈴木里奈子

さん・長谷川琴美さん・増田らんさんの4名が舞姫に選ばれ「浦安の舞」が大勢の参拝者の前で、石津地区の皆様の幸せを願い厳かに奉納されました。昔は焼津全域の船元も参詣し、多くの露店も軒を並べて大層な賑わいを見せました。また、参詣後、水天宮の前浜で一日ゆっくり遊ぶ『浜行』という風習も盛んで、このお祭りから6月まで、普段でも浜行の人達で賑わったと言われています。このような郷土の祭りや風習をこれからも大事に守っていききたいものです。



いしづの

歴史

再発見

VOI 7

岡地区の景観

もとの石津村は木屋川を挟んで岡と浜に分かれています。岡は田があるところで、浜はまさに浜辺であります。

岡は田方であるといってもミズタであって、ヨシがはえているところも少なくなかったようです。このような中で集落があるのは本田と下島、北川原、雁橋、向、新田です。これらの集落を「シマ」と呼んでいるのは河川下流域の特徴といわれています。これらのシマの中でもお寺が二つある本田近くが村の中心であったと思われます。一つを「前の寺」(不岩院)といい、もう一つを「セドの寺」(蔵珠院)といっています。その間に「シモコージ」という道があり、この道だけは耕地整理されず、今でも昔のまま残っています。二つの

お寺とその間に海に向かってのびるシモコージという道は「下島」の集落を貫く道であったということが出来ます。

小川から真っすぐに吉永村に通ずる道が吉永街道で、二つのお寺の辺りが「本田」であったから郷蔵があったと思われます。蔵前橋という橋が「前の川」にかかっており、この橋を越えて吉永の方へいくと「向(むかい)」という地区があり、前の川を挟んで向かい合っていたことから名付けられたものと思われます。川の上流で、氏神の周辺が「新田」であり、神社は本田の奥の湿田の中に祀られていたようで、後にその周辺が開発されて新田といわれるようになったと思われます。岡地区の道は、南北の吉永街道と浜へ通じるシモコージの道だけで、あとは川の土手と潮風除けに植えた松林の道、それに寺社や墓地を結ぶ細い道があるだけの所で、淋しい今では、とても考えられない様子でした。

参考文献：石津の民俗(静岡県史 民族調査報告書 第18集)

ご入学おめでとう

いしづの一年生 小学生52名 中学生64名です

3月から4月に入ると、いつもご近所の話題は「今年入学する子どもは…」とあちらこちらで聞かれます。4月7日(木)には、港小学校、小川中学校・港中学校で、そして8日(金)には、小川小学校において入学式が行われました。地域をあげて、祝福するとともに、子どもたちを育む環境に努めていきましょう。



小川小学校入学式



港中学校入学式

今年の第14自治会管内の入学生は、小学生52名（内訳：港小45名・小川小7名）、中学生は64名（内訳：港中58名・小川中6名）です。因みに、焼津市全体では、小学生1,159名、中学生1,263名。学校単位では、小川小学校101名、港小学校91名、小川中学校102名、港中学校118名です。（焼津市教育委員会資料参照）

よろしくお願ひします!

地域住民の親睦と体育の向上に
貢献する体育委員の皆さん

町内会ふれあい交流各種行事や、伝統行事である体育大会でお世話になります。

焼津市地域交流スポーツ祭が5月15日始まりました。

第46回港第14自治会体育大会

9月18日(日)に港小学校で開催します。
家族ぐるみ、地域ぐるみで応援しましょう。
競技に参加して爽やかな汗を流しましょう。
地区を超えてふれあい交流の一日にしましょう。



港第14自治会・町内会ふれあい交流

平成28年度

ドッチビー大会 6月5日(日) 港小学校体育館

優勝 第12町内会
準優勝 第5町内会
第3位 第2町内会



おどーさんがバって、祈る気持ちで



優勝 第12町内会

平成27年度

第9回グランドゴルフ大会

2月21日(日) 石津海岸公園グランドゴルフ場 74名参加

男子の部

優勝 増田 芳一様 (11町内会)
準優勝 山本 幹夫様 (5町内会)
第3位 吉田 周一様 (1町内会)

女子の部

優勝 平田とみ子様 (5町内会)
準優勝 山中 つや様 (11町内会)
第3位 橋ヶ谷育代様 (8町内会)



ファミリーバドミントン大会

2月14日(日) 港小学校体育館

優勝 2町内会
準優勝 12町内会
第3位 9町内会



優勝 第2町内会

シリーズ④
懐かしいあの時代
私の思い出アルバム

投稿お待ちしております!

我が家と 8町内会近辺の風景

中学3年当時(昭和31年頃)に、
親から買ってもらったカメラが

うれしくて、旧小川漁業組合の冷蔵庫の屋上から写しました。

8町内会 小林健太郎さん(小林合羽店)提供



伝統行事 人形に感謝を込めて、 古びな供養祭

昭和42年から焼津市環境衛生自治推進協会(環自協)の行事として、雛人形に子供の健やかな成長を願い、成人しその役目を終えたとき、人形に感謝を込めて供養することを目的に実施している古びな供養祭。

●4月15日に港公民館駐車場において、環自協役員中心に行われ、焼津市全体では、青峰公園に於いて僧侶の読経のもと、古びな供養祭が執り行われました。



交通事故 **ゼロ** をめざす

～港いしづから交通事故・飲酒運転を追放しよう～

平成27年の焼津市内の交通事故発生は、1,215件、うち高齢者事故が439件で、増加傾向にあります。事故の特徴は、追突と出会い頭事故で全事故の72.8%を占めています。

港第14自治会の交通事故は、68件のうち5件が重傷、63件が軽傷事故でした。主な原因は、安全運転義務違反(漫然運転、動静不注視、安全確認等)41件、一時不停止10件、信号無視、歩行者妨害が各3件で、飲酒運転も2件発生しました。

この結果、焼津市自治会別の無事故・無違反コンクールの無事故無違反の部では、16自治会(3,000人以上)で12位、同コンクール奨励賞の部で6位の結果でした。

交通事故や飲酒運転は、交通法規の欠如や不注意より発生しており、これらを防止するためには、自らが交通の場で交通法規を守ることを実践することが重要です。

平成28年は、これらのことを踏まえ、みなさん一人ひとりが、運転者や歩行者の立場で、自ら交通法規を守る行動を取り、港第14自治会から事故や飲酒運転を追放しましょう。

小川交番防犯情報

小川交番 ☎ 054-623-1636
焼津警察署 ☎ 054-624-0110



○振り込め詐欺(特殊詐欺)の被害防止!

- (1) 小川交番の管内でもサギ電話が多発!
- (2) 現金や通帳を要求される電話は詐欺!
- (3) 身に覚えの無い請求は架空請求!
 - ・私は大丈夫!ではありません。
 - ・今もあなたの電話に着信があるかも!
 - ・ちょっとでも変だと思ったら、まず家族、警察に連絡を!

○暑くなる季節、のぞきなどの発生に注意を!
お風呂の窓の解放はダメ! しっかり施錠!

※不審者などを見かけた時は、警察に通報をお願いします。

編集後記

広報誌創刊号(みなといしづ)から、早いもので4年目を迎えました。関係機関・団体等多方面からの多大なご支援ご協力により、自治会・町内会役員のOB委員と現任委員が精力的に取り組み、通算第7号の発行にこぎつけました。今年度から全頁カラー刷りです。住んで良かった「第14自治会」と思えるように、地域を「見える化」する広報啓発活動です。

第7号は、「つなぐ地域」を意識した内容が満載です。次号(第8号)は、11月発行予定です。ホットな話題を、各町内会長さん、または広報委員までどしどしお寄せ下さい。

広報委員/大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也
安倍孝至 平田澄夫 平田 厚

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1 町内会	620	34	7 町内会	225	2
2 町内会	462	6	8 町内会	58	11
3 町内会	145	14	9 町内会	177	2
4 町内会	62	4	10 町内会	179	16
5 町内会	76	1	11 町内会	287	7
6 町内会	76	0	12 町内会	78	4

世帯数計2,445 事業所数計101

みなと いしづか

第 8 号



第22回木屋川ボート大会

港地域づくり推進会主催 港第23自治会と協働
若者6 2名支援参加で地域の子どもを育て

7月



めざせ！家族ぐるみの参加 総合防災訓練

8月

普段のお付き合いから“いしづか”アップ



これぞ“いしづか”雨天決行 第46回体育大会

9月



子どもたちで盛り上がる 八幡さんの秋の大祭
(第2町内会の子ども達)

11月

石巻市町内会連合会との協定書締結に思う

港第14自治会 会長 丸山昭夫

この度、焼津市自治会連合会は、石巻市町内会連合会と、防災活動等を通じて交流をしていく協定を締結しました。静岡新聞やNHKで大きく報道されました。昨年4月、市連合会会長を仰せつかり、石巻の人達から3・11の教訓を直接学べることが実現出来たらと秘かな思いに、先方は焼津からは遠いし、プラスになるかと懸念を持ちました。石巻市町内会連合会の吉田会長、井上副会長のお二人は、心の大きい人でした。自分達の辛い経験が、万一の際、焼津の人々の減災に役立つならばと、快諾していただきました。来年2月19日には、焼津市文化会館で体験をお話しして下さることが決まりました。

協定書調印の席上吉田会長は、焼津市の全自治会長を前にして、「平成24年11月、港第14自治会の27人が自治会単独で石巻市を訪問激励、翌年11月には、私達を招いて、港小体育館で700名が熱心に3・11の辛く、悲しい私達の話聞いて下さり、心が動かされた」と話されました。

港小体育館での講演会は、お隣の港第23自治会と一緒にやりました。だから、私達の自治会の力だけが、石巻のお二人の心を動かしたわけではありません。協働による私達の熱意が届いたのは確かだと思います。私は、改めて、港地域の人達の地域力に感謝をし、誇りをもちました。

さらに高めなければならない防災・減災意識と実践

日頃の訓練参加の積み上げで“地域の絆”深める

「港第14自治会総合防災訓練」は、「“要配慮者”の救助」を想定した搬送訓練を中心に、8月28日に各会場で実施しました。自治会集計によると、世帯別では59%、参加者別では24%の参加状況でした。

日頃の訓練成果を、いかに災害時に活かせるかが課題となっています。

この3年間（年3回 8月・12月・3月）の防災訓練実績を見ると、8月の訓練では、2014年は2005名の参加、2015年は中止、そして2016年は1673名と3年前より332名の参加者減。12月の訓練では、2014年は1631名の参加、2015年は1710名の参加で、わずかながら参加者微増。3月の訓練では、2014年は1686名の参加、2015年は1566名、そして2016年は1461名と、軒並に参加者減の状況が続いています。とにかく、家族ぐるみの防災訓練参加を積極的に働きかけて、日頃の防災意識を高めていきましょう。

最近では、災害と「女子力」「若者力」が強く叫ばれています。

救急法短期講習

港第14自治会では、毎年6月に、日赤静岡岡支部の協力をいただき、「救急法短期講習」を開催しています。今年度は、6月26日に石津コミュニティ防災センターにおいて、48名が参加して、一次救命処置、心肺蘇生法や、搬送法等を学びました。ぜひ、次回講習には、積極的に参加して下さい。



避難所運営訓練（HUG）

6月18日には、焼津市災害時ボランティアコーディネーターの協力と支援をいただき、「避難所運営ゲーム（HUG）」研修会を開きました。災害時、まずは自分の命は自分で守る。

そして、避難所生活に移行した時に、混乱することなく、いかに避難所生活ができるかについて、共通認識を深めるための狙いがあります。



車椅子訓練を体験

8月28日の石津向町地区津波避難タワー（通称：前の川津波避難タワー）における訓練（2・9・10町内会）では、車椅子利用者の支援を想定し、車椅子の基本操作の体験、車椅子の段差のあるところでの操作体験、タワーの階段での車椅子搬送体験等を実施しました。

車椅子訓練を体験した一般や学生だけでなく、地域の全ての皆さんが車椅子について、災害時だけでなく、日常生活において、車椅子利用者支援に関心が高まることを期待します。



佐藤建設株・協力会社様の松林美化活動に感謝します

今年で3回目となる佐藤建設株（焼津市）と協力会社の社員55名の方々により、松林美化活動として、石津公園近くの松林松葉拾いが、7月8日（金）に行われました。当日は、ゴミ袋500袋を超える落ち葉を拾い集めていただきました。有難うございました。



ごそんじですか傷害保険 その2

自治会活動における傷害保険

前号（第7号）「町内会活動」から、今回は「自治会」の傷害保険について概要を紹介します。

- (1) 対象者：自治会会員
- (2) 対象事業：自治会連合会の事業（河川清掃・環境美化・河川海岸愛護・市内一斉環境美化・不燃物古紙回収・交通立哨など…これらの名称は契約書の記述であり、実際の事業名と一致しません）および自治会主催のレクリエーションです。

- (3) 保険適用：活動中だけでなく往復途上や対象事業における食中毒が該当します。
- (4) 補償内容：死亡300万円、後遺症上限300万円、入院日額4,500円、通院日額3,000円です。

*問い合わせ及び怪我等が生じたときは、速やかに町内会長に報告して下さい

雨にも負けず “いしづ” 発祥
第46回体育大会

台風16号接近の予報を気にしながら、朝5時半三役、各町内会長、体育委員全員参集の上開催を決定。朝8時30分雨傘、長靴で参加の開会式。雨の中、中野焼津市長の力強いメッセージをいただき競技開始。

第46回大会スローガン「みんなでつなげ 絆のバトン」を見事に実践しました。

各町内会相互の連携と、体育委員の手際よい運営で、全競技種目に、各テントから熱い応援が飛び交いました。

見事、総合優勝は第7町内会、準優勝は第2町内会、第3位は12町内会でした。綱引き優勝は第1町内会、町内会対抗リレー優勝は第7町内会でした。



勝敗にこだわらず ベタンク大会 和やかに

リオ・パラリンピックで話題になった種目「ボッチャ」。この種目によく似た、シニアタイプのニュースポーツ、「ベタンク大会」(3人でチーム)が、和やかな雰囲気の中10月30日に港小学校体育館で開催しました。

成績順位「男子の部」

優勝 第1町内会
準優勝 第12町内会
第3位 第5町内会
第11町内会

「女子の部」

優勝 第5町内会
準優勝 第1町内会
第3位 第8町内会
第9町内会

●今年度、最後の町内ふれあい交流大会は、2月19日に「ファミリーバドミントン大会」が開催されます。



いしづの

歴史



再発見

VOI 8

浜地区の景観

浜地区とは木屋川の海に挟まれた浜地域で、昔はわずかな戸数しかありませんでした。このような浜にはワキ(石津以外の村)から来た衆とか、

岡のシンヤ(岡の次・三男が浜に作った分家)とかが移り住み半農半漁の生活をしていました。この浜地区には大正時代は20~30軒くらいしかなく、お菓子などを売る店は1軒だけでしたが和田屋、甲賀屋などの旅館があったと云われています。旅館が多かったのは木屋川の材木運びで賑わっていたからであり、また船元がいたため、魚の水揚げで懐が豊かになった漁師の発散の場になっていたと云われています。水天宮の向にも料理屋があり、そのころは焼津よりも賑やかで、芸者を呼び寄せて騒いだということです。魚の取引の

市場は木屋川の川尻で、今の港橋の左岸下流にあったということも木屋川の川尻が栄えていた大きな理由の一つといわれています。また、昔は木屋川に架かっている橋は港橋だけであったと言われていました。岡からこの橋を渡って浜へ入るとまだ広々としていてウナギ養殖の餌であるカツオを煮る匂いが強くしていたといわれています。伊豆や富士、興津などから来ていた船の乗子がここに住むようになり、次第に人家が増えていったと言われていました。集落の中のメインロードは「中の道」と呼ばれている道で、この道沿いの真ん中に八兵衛さんとお地蔵さんが祀られています。この横に火の番小屋があって冬になると毎晩二人交代で泊まり、夜二回地区内を見回ったといわれています。この中の道を南に進むと大きな松の木があり、その下に明神宮が祀られております。この「中の道」から細い小路がたくさんの家々を結んでいたということです。

参考文献；静岡県史民俗調査報告書第18集『石津の民俗』

夏越の大祓と茅の輪くぐり

今年も6月の晦日(みそか)30日、石津の氏神社八幡宮でも、この半年間の穢(けが)れを祓う「夏越の大祓」が行われました。まもなく本番を迎える夏を前に「茅の輪」をくぐって厄払いし、無病息災を願う行事です。



第36回港公民館まつりで、港第14自治会活動紹介写真パネル展示コーナーが、昨年引き続き開設されました。

シリーズ⑤
懐かしいあの時代
私の思い出アルバム
投稿お待ちしております!

倉庫にねむっていた 我が家のお宝もの

八木熊太郎さん(八木光彦さんの祖父)他、世話人の方々が揃って、昭和14年小川尋常高等小学校(現小川小学校)の改組記念写真。

(第12町内会 八木光彦さん提供)



交通事故 **ゼロ** をめざす

～絶対ダメ! 飲酒運転は犯罪です～

管内における交通事故が相変わらず発生しています。飲酒運転発生は9月度に2件、人身事故も増加傾向です。これから、お酒を飲む機会も増えてきます。飲酒運転は絶対しない。

港第14自治会では、9月11日(日)に焼津警察署の協力をいただき「交通安全教室」を石津コミュニティ防災センターで開催しました。

冒頭、丸山会長から焼津警察署に、管内4411名の交通安全宣言・署名名簿を提出し、交通安全を誓いました。その後、焼津署及び交通安全指導員による講話と自転車の安全走行の実技指導を受けました。



小川交番防犯情報

小川交番 ☎ 054-623-1636
焼津警察署 ☎ 054-624-0110



○振り込め詐欺(特殊詐欺)の被害防止!

- ①小川交番の管内でもサギ電話多発!
- ②現金や通帳を要求される電話は詐欺!
- ③身に覚えの無い請求は架空請求!

ちょっとでも変だと思ったら、
まず家族、警察に通報を!

○のぞきの発生に注意を!

・お風呂の窓の解放はダメ! しっかり施錠!

○交通事故多発

県下の交通事故の発生は、追突、出会い頭事故の順ですが、焼津市は、追突よりも、高齢者の出会い頭事故が突出! 皆さん、十分注意して、交差点での確実な安全確認を! 小川管内でも、出会い頭事故多発!

※不審者などを見かけた時は、警察に通報をお願いします。

編集後記

あっという間に第8号の発行です。限られた紙面に、いかに自治会活動を地区の皆さんに理解し参画していただくかを「見える化」した「広報誌 みなと いしづ」。

創刊号以来、広報委員会開催も43回目。カラーの魅力を最大限活かすための取材活動の努力はこれからも続きます。次号(第9号)は、3月発行予定です。ホットな話題を各町内会長さん、または広報委員までお寄せ下さい。

広報委員/大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也
安倍孝至 平田澄夫 平田 厚
サポーター/橋本和子

「港地域ささえあい講座」開講

港地域づくり推進会(第14・23自治会)では、15名の実行委員会を設置し、11月26日・12月17日・1月14日の3回シリーズで、地域の支え合いについて講座を開講します。是非、ご参加下さい。

「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」開催決定!

弁護士堀田力氏を講師にお招きし、2月28日(火)13:00より、焼津市総合福祉会館で開催します。詳細は、後日回覧します。是非ご参加下さい。

○問い合わせ・申し込みは
港公民館 624-8855まで。

みほと いしづか

第 9 号

港第14自治会 世帯数・事業所数

平成29年2月1日現在

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	645	34	7町内会	223	2
2町内会	462	6	8町内会	58	11
3町内会	148	13	9町内会	176	2
4町内会	62	4	10町内会	179	16
5町内会	76	1	11町内会	272	7
6町内会	76	0	12町内会	86	4

世帯数計2,463 事業所数計100

11月

延べ186名の参加で盛り上がった
港地域ささえあい講座



12月

港小学校で実施した避難所運営訓練



“いしづか”で新しい地域支援を創る

1月

石津浜海岸で初日の出



2月

新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム



自治会の大切な活動とは

港第14自治会 会長 丸山昭夫

最近の朝刊の新聞記事に、焼津市内に住んでいるネパール人、ナレスさんの記事が載っていました。彼とは、数年前からの知り合いです。彼は、2年前の地震で9千人もの犠牲者がでた母国の復興の為、熱心に活動しています。市内の自治会でも寄付金を出しましたが、この度、ネパールで初めて防災センターを建てたとのこと。そして、4月にはネパールでこれまた初めての防災訓練を行うとのこと。私が新聞記事で特に注目したのは、「住民の結びつきが

強かった地域は、隣近所で救助活動を行った為、犠牲者が少なかった」こと。

昨年11月、長野県白馬村でも、隣近所の絆の強さが、大きな地震から一人の犠牲者も出さなかった要因だったと学びました。

私達の自治会にとって一番大切なこと、それは隣近所同士の、日頃の親しく、仲の良いおつきあいだと、私は改めて思いました。

住民参画の港地域づくりに挑戦!! 23自治会と協働で「港地域ささえ合い講座」開講

実行委員会で企画を練る

港地域づくり推進会（14・23自治会）の事業として、15名の実行委員が選出され、9月30日、10月12日、11月8日、12月6日、1月18日に事業の運営、講座の組み立て、講師の依頼、広報啓発、事業の振り返り等を中心に協議を積み重ねて講座が誕生。

住民主体の地域づくりを話し合いから学びあう

「港地域ささえ合い講座」は、市民一人ひとりが主体的に担う地域を学び合う参加型講座。世代や領域を超えて、港地域を楽しく語り合いながら、これからの地域づくりにアイデアを出し合いました。

ワークショップから見えたもの

第1回(11/26)「アイスブレイク」（ふれあい交流）、「焼津の福祉を学ぶ」（講義形式焼津市の福祉の現状理解）、「ワークショップ」（参加者でアイデアを出し合う・港地域の良さや課題について語り合う）。

第2回(12/17)「講義 生活支援と認知症への理解と接し方」、「ワークショップ」（ご近所福祉の現状とこれからの語り合う）。

第3回(1/14)「お互い様の復活—港地域の福祉力とは—」（高齢者世帯の事例から、問題解決に向けて、市民一人ひとりの地域デビューを語り合う）

参加者の声は……継続的講座に向けて

参加者のアンケート結果から「自由に発言できる雰囲気とてもよかった」「とても和気あいあいと楽しく学べた」「身近な生活圏域で協力すれば、問題解決できるという学びは、自分の地域に持ち帰って活用できると思った」「カードなどを使って意見を書いていくという方法は効果的で大変よかった」「全3回講座に参加したが、参加者はみな共通の問題を持っていることがわかった」「大々的なイベントでなくても、ご近所で愉しめるイベントを企画・運営し、老若男女を問わずふれあうことが大切」「地域ささえ合い講座そのものが「居場所」と感じた」「支えあいゲームで、ささいなことでも自分が手伝えることはたくさんあることがわかった」「多くの地区住民との出会いが出来た」。こうした意見をもとに、今後も継続した「講座」に発展させ、更なる“いしづ力”アップにつなげていきたいものです。



ファミリーバドミントン大会

2月19日(日) 港小学校体育館
優勝 9町内会
準優勝 8町内会
第3位 2町内会



市民ふれあいゲートボール大会

11月20日(日) 石津浜ゲートボール場
優勝 9町内会
準優勝 10町内会
第3位 8町内会



第10回グランドゴルフ大会

2月12日(日) 石津海岸公園
男子の部
優勝 長谷川歳雄様(11町内会)
準優勝 橋ヶ谷三治様(7町内会)
第3位 青島 金男様(9町内会)
女子の部
優勝 平田とみ子様(5町内会)
準優勝 石川よしみ様(9町内会)
第3位 橋ヶ谷育代様(8町内会)



ごぞんじですか傷害保険 その3

自治会連合会活動における傷害保険

「町内会活動」(第7号)、「自治会活動」(第8号)から、今回は「連合会」の傷害保険について概要を紹介します。

- (1) 対象者：自治会会員
- (2) 対象事業：連合会の指定事業（河川清掃・環境美化・河川海岸愛護・市内一斉環境美化・不燃物古紙回収・交通立哨など…これらの名称は契約書の記述であり、実際の事業名と一致しません）

- (3) 保険適用：活動中だけでなく往復途上は適用されますが、対象事業における食中毒・熱中症等は対象外です。
- (4) 補償内容：死亡400万円、後遺症上限400万円、入院日額6,000円、通院日額4,000円ですその他、自治会活動に関係する保険として焼津市主催の競技大会におけるスポーツ傷害保険があります。

*問い合わせ及び怪我等が生じたときは、速やかに町内会長に報告して下さい。(完)

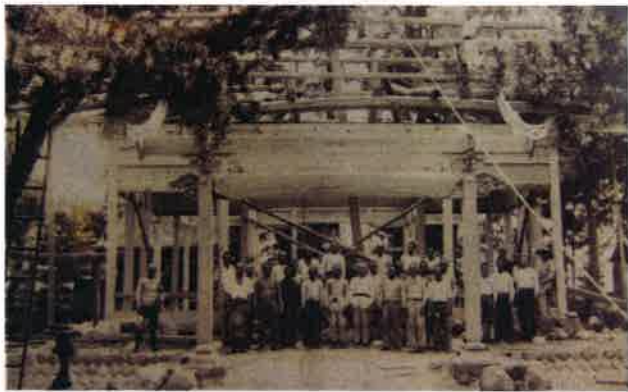
シリーズ⑥

懐かしいあの時代
私の思い出アルバム

投稿お待ちしております！

昭和15年改築された
石津水天宮拝殿棟上げ

石津水天宮は、平成25年
拝殿屋根が葺き替えられま
したが、建物本体は昭和15年に建て替えられたも
のです。その時の棟上げの関係者の集合写真です。
棟梁は、石津新田の石田幸市さん。写真提供は、
棟梁長男の石田二三夫さん(1町内会)です。



しおかぜスクールをサポート

港小学校、同育成会は、港地域の民生委員児童委員、
14自治会、23自治会、静岡福祉大学生のサポートにより、
焼津青少年の家で通学合宿(しおかぜスクール)を
12月1日~3日の2泊3日で開催しました。参加者は、
小学生高学年34名(男子11名、女子23名)。

集団生活を通
じて心豊かで、
たくましく、
ルールをまも
る児童になる
よう毎年この
時季に実施さ
れています。



港第14自治会主体の海岸清掃に250名参加

11月27日開催予定のビーチクリーン大作戦(市主催)
が降雨で中止になったため、港第14自治会では、初日
の出を綺麗な海岸で迎えようと、12月17日(土)に250人
が参加し独自に、海岸清掃作業を実施しました。

元旦は、集められた流木で海岸のあちらこちらで暖
を取る風景が見られた。



女性消防隊員誕生

昨年11月に、港第14自治会5町内会の
新田清美さんが、女性消防隊に入隊しま
した。

消防隊の主な活動内容は、消防団の広
報PR、救命講習の補助員、AED講習指
導等、地域の安心・安全を守るため、
平成11年に結成されました。

新田さんは、この活動を通じて地域のお役にたきたいと
抱負を語っていました。



新消防ポンプ車お披露目

1月29日、石津西公園で焼津市から消防団第11分団に
新しい消防ポンプ車が引き渡されお披露目会がありまし
た。17年ぶりの更新です。当日、100人ほどの見学者に
は、甘酒が振る舞われ
ました。参加したちび
っこ達は、消防団のみ
なさんの指導で可搬ポ
ンプによる放水訓練も
体験しました。新車両
は、石津岡公園の東側
の消防団詰所に配置。



小川交番防犯情報

小川交番 ☎ 054-623-1636

焼津警察署 ☎ 054-624-0110



○振り込め詐欺(特殊詐欺)の被害防止!

- ① 小川交番管内でもサギ電話が多発!
- ② 現金や通帳を要求される電話は詐欺!
- ③ 身に覚えのない請求は架空請求!
- ④ 「還付金があります。」は詐欺!
まだまだ被害が多発しています。
私は大丈夫!ではありません。
今もあなたの電話に着信があるかも!
電話の指示に従う前に、
まず家族、警察に連絡を!

○店舗に対する侵入窃盗が多発!

焼津警察署管内では、店舗や事務所への夜間(営業
時間外)における侵入窃盗事件が多発しています。

※不審者などを見かけた時は、警察に通報をお願いします。

編集後記

いったい、「みなと いしづ広報誌」は、自治会活動を住
民に理解する呼びかけができているだろうか?こんな問いか
けをしつつ、このたび、発行して4年を経過したこの時期に
、会員各位にアンケートを実施することとなりました。次年
度に向け、広報誌を改善し、「自治会活動を理解する」から
「住民の声」を反映した広報誌/参画する自治会活動を目指
します。各組長までご提出をお願いします。

広報委員/大澤雅晴 伊藤敏行 青嶋敏夫 植村悦也
安倍孝至 平田澄夫 平田 厚
サポーター/橋本和子

今、助け合いをやろう！

“港地域力”で「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」実現

大きな制度改革により、これまでの地域の支え合いのあり方を根本的に見直す時期。あらためて、「地域とは何か」「支え合いとは何か」「住民主体とは何か」「地域支援とは何か」を地域住民主体の問題として学び合うことを目的に港地域づくり推進会関係者15名を含む実行委員会(27名)を設置し、2月28日(火)に焼津市総合福祉会館において350名が参加し開催しました。

プログラムは、「焼津市の現状と未来」について焼津市の職員から講話。さわやか福祉財団会長・堀田力氏の基調講演「今、助け合いをやろう」では、これからの地域づくりのあり方について示唆をいただきました。若い世代の地域参加を呼び掛けたプログラムが加えられました。トーク&トークでは、「めざす！市民主体の地域づくり」をテーマに、地域ボランティアの実践、自治会ぐるみで取り組んでいる居場所、これから必要とされるであろう生活支援について、貴重な実践活動をご紹介いただきました。参加者からは「自分から無理なく取り組みたい」「自治会の主体性で取り組んでいく」「現役世代の方々の考え方を聞きたい」などの意見がありました。



自治会防災研修旅行 長野県白馬村に学ぶ

平成26年11月22日午後10時8分頃、最大震度6弱 (M6.7)の大きな地震により家屋倒壊など被災した「長野県白馬村」を学ぶ研修を平成28年11月20日(日)、に実施しました。

被害が特に大きかった堀之内区の当時区長をされていた鎌倉宏さんは『最も被害が大きい約80世帯が住む私の区は、4世帯10人が倒壊家屋の下敷きになった。消防や警察などが駆けつける前に、住民自らが救出救助に動き、死者を出さなかった。それは住民男性全員が消防団員を経験しており、救出救助の基本・技術を学んでいたこと、住民同士の絆であり連携に繋がり、死者を出さない結果となって“白馬の奇跡”といわれた所以となった』と強調された。



石津ミニディ20周年おめでとう

1月18日に「石津ミニディサービス20周年記念式典」が石津コミュニティ防災センターで行われました。

式典には、ミニデイ利用者・ボランティアの皆様、丸山自治会長、永田市社協会会長をはじめ自治会の関係役員・港公民館事務局など60名ほどが出席しました。

来賓の祝辞、長年ご尽力されたボランティアの表彰、「ぼけナイト」の皆さんのアトラクションで大いに盛り上がりました。これからも、地域ぐるみで、支え合い活動に参加しましょう。



いしづの

歴史



小川港の変遷 ①

今回は石津の発展に大きな影響を与えた小川港について2回に分けて掲載したいと思います。

小川港の歴史は古く、古代には東海道を海岸を通して小川駅があった関係から、その駅と連携して海上交通の駅である港が近くにあったと思われます。室町時代の記録には小川港が利用されていることや、その近くに長者屋敷があってその伝承地から中世の生活の遺物が見つかることから、小川港を利用して交流がなされていたものと思われます。小川港の初

見資料というのは、文明17年(1485)に書かれた『梅花無尽蔵』という漢詩集に、掛塚湊(旧童洋町)から小川湊にむけて船出した、というものです。さらに永禄3年(1560)の今川義元の判物によると小川港は清水、掛塚などとならんで今川家の重要な港であったようです。ただ港が小さく、波風で港が埋められてしまうことが多いので、大きな船が入ることができず、江戸時代になって幕府の御用材を大井川から木屋川に誘引して、江戸深川に搬送したことがあっても本当に必要な時だけで、恒常的に利用することはできなかったと思われます。

今回は、明治以降今のような漁港に変遷していった様子を紹介します。

参考文献：静岡県史民俗調査報告書 第18集『石津の民俗』